

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	2-3-2		事業名	北海道大学連携型起業家施設運営事業	
担当	経済局産業振興部産業振興課新産業担当係 藤原 薫 211-2379				
全 体 計 画					
事 業 内 容	北大リサーチ & ビジネスパーク推進協議会事業 产学官の協働によって北海道大学の北キャンパス周辺エリアにおける研究開発を促進させ、大学等の知的財産を有効活用することによって、新技術・新製品の開発やベンチャー企業・新産業の創出を図ることを目的に設立された本協議会に参画し、負担金を支出する。 北大BI(ビジネス・インキュベーション)支援事業 北海道大学をはじめとした大学等が持つ知的財産と、地域企業が持つ技術力を活用して、新事業の創出・育成をすることを目的とした北大BI(平成20年秋に竣工予定)に対し、北海道とともに入居企業の賃料を応分負担するとともに、北大BIの入居者支援を担当するIM(インキュベーション・マネージャー)を配置する。 R&Bパーク大通サテライト運営事業 北大リサーチ & ビジネスパーク構想の推進のため、市内中小企業の技術開発、新事業展開等の相談に対応するとともに、大学等の知を活用した研究開発及び実用化・事業化への展開を促進することを目的として市内中心部に設置されたR&Bパーク大通サテライトの運営に対して、北海道、北海道経済連合会等と応分の負担金を支出する。	< 年度別の事業内容 >			
		平成19年度	R&Bパーク大通サテライトの運営に対して、北海道、北海道経済連合会等と応分の負担金を支出するとともに北大リサーチ & ビジネスパーク推進協議会に対して負担金を支出する。		
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)	平成20年度事業内容(予算)			
	R&Bパーク大通サテライトの運営に対して、北海道、北海道経済連合会等と応分の負担金を支出するとともに北大リサーチ & ビジネスパーク推進協議会に対して負担金を支出した。 北大リサーチ & ビジネスパーク推進協議会に参画することにより、下記の3事業についてその事業化支援を実施した ・微細孔径ハニカム膜を用いた製品及び製造装置のビジネス開発 ・キトサン・ナノ纖維を用いた製品および製造装置のビジネス開発 ・極限高洗浄度環境を提供するクリーンユニットシステムのビジネス開発 また、R&Bパーク大通サテライト運営事業においては、4000名以上の利用があり、かつ特許・研究開発等において290件の相談を受けることにより、市内中小企業の技術開発・新事業展開を支援した。	R&Bパーク大通サテライトの運営に対して、北海道、北海道経済連合会等と応分の負担金を支出するとともに北大リサーチ & ビジネスパーク推進協議会に対して負担金を支出する。 加えて平成20年度より、北海道とともに、北大BIの入居企業の賃料を応分負担するとともに、北大BIの入居者の支援・本市との連絡調整役を担当するIMを配置する。			
達成目標の状況					
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)
北海道大学特許出願件数	271件	314件	300件	350件	400件
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)					
市民との連携、市民参加 北大リサーチ & ビジネスパーク構想を推進するにあたり、有識者より意見を聞いています。また北大BI設立時においても、企業にアンケート調査等を実施している					
企業等との連携・協働 [資金協力]北大BIは、中小企業基盤整備機構が建設費を負担しており、資金面でも北海道などと応分負担している [人材協力]北大BIについて、中小企業基盤整備機構・北海道・経済界などと共同してIMを派遣する [情報協力]北大BIについて、北大や経済界の入居希望情報を各機関より入手している [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり 北大BIへの入居に関して、事前に企業の希望を聞き、柔軟に対応することにより、企業が入居しやすい環境づくりを行っている。					

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	2-3-2		事業名	北海道大学連携型起業家施設運営事業		
評価(成果)			課題			
<p>北大リサーチ & ビジネスパーク推進協議会に参画することにより、北大内の3研究についてその事業化を促すことが出来た。また、R & Bパーク大通サテライト運営事業においては、4000名以上の利用があり、かつ特許・研究開発等において290件の相談を受けるなど、市内中小企業の技術開発・新事業展開を促すことが出来た。</p>			<p>これまで事業化を促すことが出来た案件以外にも、大学の中には多くの基礎研究があるが、これら多くの基礎研究の事業化をさらに促し、そこから創出される先端産業の発展を促進する必要がある。北大BIについても、ソフト支援などの仕組み作りを行い、大学の知を効果的に事業化していく必要がある。</p>			
今後の事業の予定・方向						
<p>これまで事業化を促すことが出来た案件以外にも、大学の中には多くの基礎研究があるが、これら多くの基礎研究の事業化をさらに促し、そこから創出される先端産業の発展を促進していく。北大BIについても、ソフト支援などの仕組み作りを行い、大学の知を効果的に事業化していく。</p>						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	7,650	14,150	22,100	22,100	66,000
	財源	国・道支出金	0	0	0	0
		市債	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0
		一般財源	7,650	14,150	22,100	22,100
予算	事業費	7,650	11,800	-	-	19,450
	財源	国・道支出金	0	0		0
		市債	0	0		0
		その他	0	0		0
		一般財源	7,650	11,800		
実績	事業費	6,473	-	-	-	6,473
	財源	国・道支出金	0			0
		市債	0			0
		その他	0			0
		一般財源	6,473			
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				27.7%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度] 北大BI入居者調査について他機関と連携して実施することで、事業費を抑制することが出来たため、予算に比べ減額となった						
[20年度] 北大BI入居企業に対する賃料補助について、施設面積(賃貸部分)等が当初計画と差異があったため、事業費が抑制されたが、事業は計画どおり実施						